

保護者の皆様



令和2年9月3日

酒田市立東部中学校  
校長 舟山 邦彦

## 新標準服展示のお知らせ

初秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対してご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、現在本校では、現行の制服について見直しを図っているところです。「豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となる生徒を育成する」(新学習指導要領前文)ためには、多様性の理解と協調が求められます。画一的な制服から選択の幅がある標準服を採用することによって、自主性の育成、LGBTQなどの多様性への配慮、動きやすさや防寒対策等の面で、教育的効果が高いと考えております。【裏面参照】

つきましては、三者面談期間中、1階ホールに標準服の見本を展示いたしますので、ご覧いただければと思います。

記

1. 標準服の展示 9月7日(月)から9月9日(水)まで  
三者面談期間中 13:00~17:00  
1階ホール【昇降口脇】

### 2. 標準服の採用について

- 来年度の1年生から導入予定ですが、新2・3年生で購入希望の方は購入しても構いません。
- ネクタイ、リボンが選択可能です。
- 女子は、スカートとスラックスの選択が可能です。  
(両方の購入も可能です)
- その他、細かなルールは、生徒とも相談しながら、今後検討していきます。



### 多様性の理解・協調

世の中には様々な「個性」をもった人がいます。その「違い」を受け入れる心を育てるために……

### 自主性の育成

周りに流されず、自分で物事を判断し、自分で決め、自分を生かす力を育成できるように……

## 新標準服の教育的効果

### 動きやすさ(機能性)

小学生女子の大部分が、スカートで登校していません。私服でもズボンを履いている人が多いのに、制服は全員スカート!? スラックスは機能的です。

### 防寒対策

冬期間、スカートでは寒いという声があります。スラックス型だと3度も暖かいそうです。

<参考 7月22日付山形新聞より>

### 始まりは軍隊

## 「規律求める組織」象徴

学校の制服は明治時代以降、近代制度の中で作られた。始まりは軍隊で、いわゆる学ランと呼ばれる詰め襟服は軍服から生まれた。京都華頂大の馬場まみ教授(服装史)は「一つの価値観を実現するため規律が求められる組織において、ふさわしい服装である」ことを象徴している」と語る。馬場教授によると、戦前、制服の着用は旧制中学などに通う一部のエリート層に限られていた。戦後は1960年代の高度成長期に普及。ベビブームにより誕生した多くの生徒を管理するために役立つという。

一方、学園紛争の影響で68年ごろから70年代初頭にかけて、「管理の象徴」として制服を廃止する高校が出現。ただ、70年代半ばから再度制服を指定する動きがみられた。90年代から2000年代にかけては、アパレルメーカーが参入するなどファッション化。着こなしを楽しむ女子高生の姿がメディアで取り上げられるようになった。

馬場教授は「子どもが自発的に着ているような風潮が生まれ、大人への反抗にも見える着崩しもあったが、制服の存在そのものは疑っていない」と述べた上で、制服の存在について「戦前の富国強兵から戦後の産業化への貢献まで、国家が求める人材を育成するための『規律の維持』という役割は変わっていない」と本質を指摘する。近年はトランスジェンダー性的少数者らの声により、男女別制服の見直しが進む。馬場教授は「制服が変わると学校だけでなく社会にも良い影響を与える」と述べ、「同じであることをよし」とすることによって生まれる同調圧力の解消やジェンダー平等につながることをみる。馬場教授は「何を着るか」を決めるのは、子どもと保護者の権利とし、制服を無くすべきだとの立場だ。ただ、「当面無くすのは難しい。せめて、私服も選択できるようにすべきでは」と提案している。